

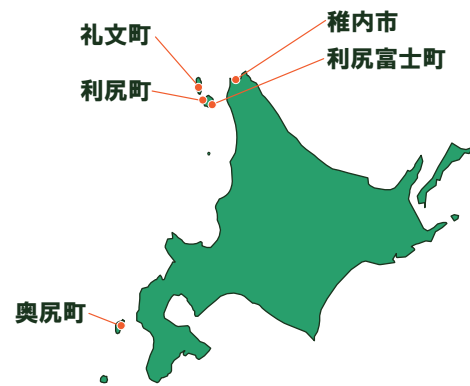


にぎわい

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク通信

編集者より

今回の「にぎわい通信」第148号では、利尻富士町、稚内市での“にぎわい”を紹介するとともに、ネットワークの主要課題の1つでもあります「漂着ごみ問題」について、礼文町、利尻町、奥尻町での今年の海岸清掃の状況を報告します。



会員だより

りしりふじちょう
利尻富士町

-日本最北のサーフィンイベント

「波フェス in RISHIRI ISLAND」の開催について-

利尻というと、利尻礼文サロベツ国立公園やリシリコンブ、エゾバフンウニ等の漁業や観光をイメージする方が多いと思いますが、近年、日本最北の離島「利尻」で行うサーフィンの話題が増えてきていますのでここで紹介したいと思います。

利尻島でサーファーの姿が見られるようになったのはここ数年前、地元で一人のサーファーが家業の旅館を継ぎに帰郷してから、サーフィンを通じた地道な活動を継続し、今ではその魅力にはまり地元でサーフィンを始める方や、観光客でサーフィンのために利尻を訪れるリピーターが増加してきました。

そして今年は、日本最北のサーフィンイベント「波フェス in RISHIRI ISLAND」が開催される事となり、10月2日に前夜祭が実施さ



大会の様子

れ、3日に利尻島野塚海岸でサーフィンコンテストが実施されました。

当日の参加者50名のほとんどが島外からの参加者で、遠くは茅ヶ崎からの参加者も。いつもは漁業者しかいない船揚場がこの日だけはサーフスポットとなりました。

当日は波が小さくライダークラスの方からビギナーまで悪戦苦闘していましたが、地元の方の応援などで大盛況の内に終了することが出来ました。

利尻島は漁業と観光の島ですが、今後サーフィンを通じた活動により地域活性化が図られ、利尻の海が「風の良い日」は漁船漁業で活気のある海に、「波の良い日」はサーファーで賑やかな海になる事で、新たな利尻島観光やまちづくりの可能性を感じる事が出来た一日でした。



全員そろってハイポーズ！

わっかないし
稚内市

-新砕氷艦「しらせ」稚内寄港-

平成21年に完成された砕氷艦「新しらせ」が南極観測地からの航海を終えて、初めて全国各地を寄港することが決定され、その最初の寄港地として北海道では唯一『稚内市』が選ばれました。

稚内市と南極観測との歴史は古く、当時の南極観測といえば犬ぞりを用いた移動でありましたが、その犬ぞり（樺太犬）の訓練地が稚内であり、映画「南極物語」のモデルとなったタロ・ジロの生誕の土地であることや、初代砕氷艦に「宗谷」と名づけられていることなど、その関わりは根強いものがあります。

新砕氷艦「しらせ」が稚内に寄港する本年は、南極探検を日本人で初めて行った年から100年という節目の年でもありましたので、南極探検100周年記念事業と題し、新砕氷艦「しらせ」の一般公開を始め、南極映画祭や南極観測展など南極に関する様々な事業を



新砕氷艦「しらせ」接岸状況



イベント状況

展開してまいりました。

新砕氷艦「しらせ」の一般公開は9月3日から6日までの計3日間でありましたが、一般公開の会場である末広埠頭では稚内市民や道内観光客などで賑わい 約9,000人が艦内を見学することができ、普段観ることのできない艦艇に多くの方が興奮しました。

また、新砕氷艦「しらせ」の乗組員には、北海道遺産でもある北防波堤ドームで歓迎レセプションを行い、稚内の海産物やセレモニーで稚内の夜を満喫していただきました。

“漂着ゴミ問題”について ～各地で海岸清掃を実施～

れぶんちよう
礼文町

-海岸清掃を学習の場-

本年度も4月28日に町内の全小・中学校が参加し礼文島内一斉のクリーン作戦が行われました。

船泊^{ふなどまり}中学校では、地元ボランティア(礼文町、観光協会、建設協会、漁協、漁業者等)とともに鮑古丹^{あわびこたん}から澄海岬^{すかいみさき}までの海岸に漂着したゴミを収集し、船泊小学校、神埼小学校合同でスコトン岬から鮑古丹、澄海岬までの海岸清掃を実施しました。

学校では、この清掃活動を、昨年と同様、参加した生徒に対し「自分と人の心を大切に
する奉仕の心を考えながら、自ら行動できる」、
「ゴミの分類調査をとおして、環境やモラル
について考える機会とする」ことをねらいとし、
学習の場として海岸清掃に参加しています。

収集されたゴミは、ペットボトル、家庭ゴミ、漁具など5種類に分類し、建設協会の車輜により処分場へ搬送する工程で実施しました。今後もこの清掃活動を引き続き継続していく予定です。



海岸清掃状況



海岸清掃状況

りしりちょう 利尻町

利尻町では海が穏やになり、漁が忙しくなる前に、毎年各地区の漁業協同組合が主体となって毎年4月下旬頃に町内の漁業者や役場関係者、組合職員など約300人が参加し、海岸で一斉清掃を実施しています。

利尻島の西海岸は、日本海を北上する対馬暖流と大陸からの西風により、島内でも漂着するゴミが多い場所となっています。近年は、魚網やロープなどの漁具以外に韓国語やロシア語で書かれた漂着ゴミが多くなりました。

本年は4月29日・5月1日にくつがた・せんぼうし両地区全体で実施し、海岸一帯はいつもの美しい海岸によみがえりました。

年間約18万人の観光客が訪れる利尻島。ほかにはない美しい海。これからも地道な海岸清掃活動を通じて、今後も島民一丸となって利尻島の自然を守っていききたいと思います。



海岸清掃状況

おくしりちょう 奥尻町

奥尻町では、雪解けとともに道路沿いで目立つようになったゴミや海岸に漂着したゴミなどの回収を図るため、「奥尻町クリーンアップ作戦」と「海浜清掃」を毎年開催しており、今年も4月19日に全町一斉に展開しました。

この取り組みは、各町内会員をはじめ建設協会員、事業所員、町職員、自衛隊員、団体、小中学生などがこぞって参加し、ボランティアで実施しています。

今年も約800人が参加し、それぞれ割り当てられた区間の道路沿いや観光名所地、海岸などローラー作戦でゴミを回収すると、その量は約7.5トン、トラックで17台分にも上り、これから本格化する観光シーズンを前に奥尻島のきれいな環境を取り戻すことができました。ちなみに回収されたゴミの種類は、空き缶や空き瓶をはじめ、プラスチック容器、発泡、漁具、ロープ、網類、古タイヤ、電化



回収されたゴミ

製品、生活用品、アルミ製品、鉄くず、木くずなど様々で、そのほとんどが海流や波によって運ばれてきた漂着ゴミとみられています。

また、奥尻町立奥尻中学校では、毎年さいの河原海岸で、総合的な学習の時間を利用して、ボランティア活動体験を通しての清掃活動を実施していますが、今年も「清掃活動を通して、生まれ育った奥尻島を大切にすることを育む」ことを目的に、海岸を清掃しゴミ回収を進め、2トントラック2台分のゴミを集めることができました。



中学生の海岸清掃状況

こうした中学校教育の一環でも環境問題に取り組む活動が年々増えており、町全体でゴミ・環境問題への関心度が高まっています。

このように奥尻島は、透き通った海、自然美豊かな景勝地、ウニ・アワビなどの豊富な魚介類とともに、ゴミのないきれいな環境の島として、みなさんのご来島を心からお待ちしております。

編集・問い合わせ先

日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 事務局

国土交通省 北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課

Tel : 011-709-2311 (内線5567) Fax : 011-709-2147